

第5回琴浦町小学校適正規模・配置審議会 会議概要

日時 平成20年11月14日午後3時30分～午後5時30分

場所 まなびタウンとうはく 4階 研修室

教育長挨拶

第5回の琴浦町小学校適正規模・配置審議会に、大変お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今日は、総務課の財政担当より町財政の現状についての説明、他町との小学校費の比較、小中一貫教育の説明をさせていただき、ご審議を深めていただけたらと思います。

琴浦町の財政状況について

- 平成16年9月1日に琴浦町として合併し、予算編成をしてきているが、年々厳しい予算編成となってきています。全体としては、国の三位一体改革により補助金、地方交付税の削減が大きな要因としてあります。毎年の予算編成は、各課からの要求が、歳入を10億円くらい超えて要求され、事業の優先順位、必要経費の一律削減等を行ないながら予算を編成し、最終的に足りないところは、基金を取り崩して予算編成を行なっている状況です。

前回、事務局で財政推計をこの会でお示ししましたが、お示しする度に推計が違うというようなご質問がありました。財政推計は、合併後の行財政審議会、総合計画樹立時、そして今回と3回だしましたが、その時点での直近の決算数値などを反映させて、推計値を出します。そのため、それぞれ基金がなくなるのが、23年度、26年度、28年度となっています。特に今回は18年度、19年度に、合併特例債を借りて新たに地域振興基金を積み立てていますので、基金総額は、以前の推計時点の額より増えています。

また合併後10年間は、交付税の算定に関し合併以前の2町で算出した合計額で交付されますが、それ以降5年間で徐々に削減され、16年目からは琴浦町1町のみでの交付税算定となり、最終的に今の約10%強の減収が予想され、更に厳しくなるものと思われます。従いまして、経常経費を少しでも削減していくことが必要となってきます。

- 予算で毎年歳出の方が多いのは特殊要因があるのか？
- 単年度での特別な要因というよりは、下水道会計や福祉関係の特別会計への繰出金が少なくなる点や、必要最低限度の施設管理費、その他の経常的経費に対し、国の三位一体改革で、多くの国県補助金等が一般財源化と

いう名のもとで削減され、そのうえ地方交付税額も、合併の特別需要を除けば全体的に減額となっており、その意味で必要な経費に対し歳入総額が増えない、逆に減少してきている点が、歳出超過の原因と考えております。

小学校費の他町との比較について

- (資料により説明) 当町は経常的経費で他町より、児童一人当たり 10,000 円強割高となっています。
- 他町の学校規模児童数は、また管理費が前回提示のものと違うが？
- 学校の規模は当町より大きく、児童数は全体ではそう変わりません。また前回提示した管理費は、学校の運営に係る基本的な部分を提示しましたが、今回は他町との比較もありましたので、決算書に載っている数字をすべて、あげています。

小中一貫教育について

- (資料により説明、資料編⑩小中一貫教育参照) 小中一貫教育の背景、中学校に進学するときの不安(いじめ・不登校)、児童生徒の減少に伴う学校の統廃合に絡んで連携・一貫教育の模索、新しい時代の義務教育を創造するというような背景があり。小中 9 年間の教育課程の連続性をもたせたり、心身の発達を理解し小学校から中学校への円滑な移行により、中学校進学時の段差や不安(中 1 ギャップ)を解消し、子供の育ちや、学びを保障する。

本町では、0 歳から 15 歳をどう繋げて行くかということで、「ことうら 9 (ナイン)」推進プランを作成し、特に就学前教育と小学校、小学校と中学校の連携を図りながら、学びづくり、仲間づくり、体づくりの一貫した目標を持って取り組んでいます。

- 本町の「ことうら 9」は小中一貫校の設置を見据えたものなのか？
- 小中一貫校は、現在考えていません。「ことうら 9」が出来た背景には、小学校の低学年で生活の基礎が出来ていない部分があり、課題解決に向けて、幼・保と小学校と家庭が連携して「幼児期からの『学びの基礎』を育むプログラム」に取り組んでもらっています。また、かつては中学校での不登校生徒が多かったが、これを中学校だけの問題と考えるのではなく、小学校から中学校までの 9 年間で意識しつなげていくことが大切で、「ことうら 9」は本町の幼・保・小・中学校すべての共通プランとし、家庭にも呼びかけながら、各段階での連携・接続を図るものです。
- 琴浦町では、一貫校という視点でなく、一貫教育は必要だろうという観点で、0 歳から 15 歳までのプランを建てておられる。隣の北栄町は、小中

高一貫で、中央育英高校との交流を考えている。鳥大付属も、高校を造る検討をしており、幼稚園から大学、それ以降の生涯教育を含めた教育のあり方を模索している。琴浦町も、学校教育と社会教育が連携し、一貫した物の考えをしていかなければならないのでは。

- 保育園との連携では、部局が違うがうまく行っているのか。
- 学校教育担当主事が園長会等に出たり、各園を回ったり、保護者会等に参加しながら「学びの基礎」を育むプログラムをやってもらった。そこで、無理がある所、成果のある所を検証しながら、保・小の連携を図っています。また、保育園保護者へは小学校を意識した子育て、あたり前のことが、あたり前に出来る家庭教育も必要ですよとお願いしています。
- 担当課ともうまく連携は取れているのか。
- 行政もこればかりでなく、いろいろな分野で縦割り行政にならないよう、各課で連携を密にしながら、諸施策を行なっているところです。
- 幼・保育園と小学校の連携をどうするかという話ですが、今、幼稚園・保育園のあり方検討委員会が立ち上がって、検討が始まった。県では、認定子ども園として、幼稚園と保育園の一体化を考えていて、幼保一元化が小学校との連携にも有効で、そのようなことも視野に入れながら、小学校がどうあるべきか検討していく必要がある。

小学校適正規模について

- 話を小学校の適正規模に戻しますが、これまでの話の中で、近い将来児童が入学してこないような小学校もあり、そのような小規模校のままでいいのか、また小学校が比較的新しい学校があるが、統廃合した場合、その補助金返還等は。
- 法律が変わり、統廃合した場合、10年以上経過しているものについては、補助金の目的が達せられたものとし、地域のコミュニティ施設等の活用を使用する場合は、補助金の返還は不要です。
- 仮に統廃合され跡地が生じた場合、地域の教育力、社会教育など教育の全体を考えると、跡地のことも頭に入れながら、適正配置ということも考えられるのでは。
- 今議論がどのくらいの段階にきているのか、共通認識することも必要では。
- 琴浦町の小学校はいずれも小規模校だと思うが、小規模校の弊害を解消していく時期に来ている。それをどういう解消の仕方があるのか。小規模校でいいと言いながら、本来の教育から少し不足しているものがあるのではないかと、小規模校のいいところもあるが、集団での教育をするという使

命もあると思う。それを踏まえ人間関係、教育活動、教員配置等考えると、やはり学級替えの出来る規模が必要ではないかと思っている。

- 今日、5回目の会になるが、自分も中規模校くらいがいいと思うが、その他の人の意見は。
- 事務局は皆さんからの要望等について、情報提供しながら、子供たちが抱えている問題や取り組んでいる状況、学校がおかれている状況、財政状況等、現実を確認していただきながら、話は進んできていると思います。来年の今頃に最終答申を出してもらおうというような日程を考えると、そろそろ現実を踏まえながら、具体論に入っていく必要があるのではないかと考えています。そこで例えば、全体を分けて小グループでの議論というような方法もあると思いますが。
- 今後の進め方についてひとつの提案がありました。今の案は、全体で進めても、なかなか具体論がでにくいので少人数で、との提案であります。
- そのような進め方もいいと思います。それと小中一貫教育でありました中1ギャップは、私もその子の人生を変えるような大変な問題だと思う、やはり小学校のときから多くの人とかかわっていけば、このギャップも緩和されるのではないかとと思う。そういう意味で個人的には合併もいいかなと思います。
- 僕は小中とも、複数学級ないといけないような気がする。単学級では子供のクラス替えもないし、先生も1学年1人でやらないといけない。2人いるとその力が2でなく、3にも4にもなるような、お互いが相談して学年学級が出来上がっていく、それは求めていいのではないかとと思います。小学校の先生方どうでしょうか。
- 子供たちにクラス替えがあるというのはとても大事なことだと思います。小さい学校だと保育園からずっと同じ人間関係で小学校卒業まで行く、ずっとうまく行けばいいが、何かあったときに学年が替わって、クラス替えがあるというのは、子供達にとってもいいリフレッシュの方法だと思います。先ほどもありましたが、1つの学年を複数の先生で見ると、子供をいろいろな角度から見る事が出来るし、相談しながら進められるので、いいと思います。
- 子供の間関係のほかに、先生を含めた教育環境について、お聞きしましたが、やはりそうかなと感じました。
- 今、学校と地域はお互い協力し合、いい関係にある。そういった意味で、たとえ合併になってもその関係が維持できるようなものでないと、いけないのではないかと考えています。
- 今、鳥取県では学力テストの開示問題が大きな論議になっている。子供

の教育は、学校の教育だけでなく、地域や家庭の教育力も十分に発揮する必要がある。そのためには子供の状態を知らないままに、地域の教育力は発揮できない、そういった意味で、学習状況調査等は地域の共有情報として公表し、教育は学校と地域が共に担っていくという視点が大事でないかと思っています。

○ 合併はある程度仕方ないことだと思っている。それをいかに子供への影響を最小限に抑えるような議論も必要なのではと思っているので、例えば、保護者なり、地域なりの参加者で分けて議論をして、具体的に進めていくことも必要かなと思います。

○ 学びの基礎を育む保小の連携、小中一貫教育の取組を、琴浦町全体の学校が同じ方向で取り組まれ、どの学校がどういう教育というような違いがなく、安心しました。

保護者等で話し合うと、合併は仕方ないというような話になり、その時に、校区がどうなるのかが話題となる。そうなれば新たなところで一つの学校でもと、というような意見もある。

○ 地域の意見を聞くようなことも考えないといけないのでは。

○ 地域の方の意見を聞くということは大事なことで、これをどういう形で聞くか。また、この場での意見もホームページで公開しています。

○ 私も子供がいて、子供に合併したほうがいいのかどうか聞いたところ、合併したほうがよい、中学校に行く则他の学校の子供さんとふれあいが出来ていいと言っていました。私自身は、早く合併したほうがよいと思っています。それと今ありましたように、地域の方の意見を聞くのはいいでないかと思っています。

○ 適正規模といえる学校は、クラス替えとかいろいろなことを、考えても1学年2学級は必要ではないかと思う。また小中一貫校は、さらに児童数が減少し、将来的には考えていかなければならない問題だと思う。

○ ある一定の方向を見据えた議論も必要ではないか、というような意見だと思います。また、先ほどは統廃合のあり方の意見、住民の意見を聞くべきといろいろな意見が出ました。今日を境にそのような方向に進むべきかどうか、他に意見はありますか。

○ 地域の人に喜ばれるような方法がいいなというのが頭にあつて、どんな時も反対の意見はあると思う。地域の意見を聞くにしても、ある程度方向性を出して、意見を聞く必要があるのでは。また少人数とか、形を変えて議論してみるのもいいかなと思います。

○ 地域の教育力を得ることは大事で、具体的に県内のある町は、コミュニティスクールとして、学校経営まで地域の方が参加しておられる。地域の

教育力ということは、琴浦町もそこまで踏み込んだ学校づくりをするのか、そこまでのことは考えないのか、統廃合をする場合そのあたりのことも考えておかなければならないのでは。誰もがいい学校にしたい、いい子供達に育ててほしいという願いはあるので、どういう方法がいいのか？

- まだ早いかもしれないが、例えば統廃合などになった場合、校区がどうなるのかということも不安要素ではある。
- 最初に説明された、「ことうら9」「学びの基礎を育むプログラム」の取組は、先生、保育士、保護者等関係者には周知してあると思うが、これは琴浦町の住民全体に認識させるべき問題でないか。ある校区の保護者や地域だけで、育てるのでなく、中学校までのいろいろ乗り越えなければならない障害がある中で、琴浦町全体で、子供たちをこういう観点で教育して行くということを浸透させていくことが重要なことで、その地域だけで教育を考えるのではなく、町全体で考える必要があるのではないか。また地域の先生を掘り起こしていくことも、大事なことだと思っています。
- 教員から見て、学校規模は、大規模がいいのか小規模がいいのか、どちらも経験してきたが、大規模校は専門性が養われるし、小規模校は幅広い知識が得られる。どちらも必要であると思います。また地域の声を聞きますと、地域の方は絶対残してくれというような意見が多いですし、保護者の方は、合併したほうが良いというような意見が若干多いかなと感じています。学校は今地域の高齢者の方に多くかかわってもらっていますが、もし合併になれば、そのかかわりも少なくなっていくと思います。
- 全国学力・学習状況調査では秋田県が一番だった。その要因に高齢者の学校へのかかわりが多い、そのことが高い教育力に繋がっている部分がある。さきほどありましたように、地域とのかかわりは大事で、たとえ合併になったとしても、そのことは続けていく必要があると思います。

まとめ

- 次回の進め方で、小グループに分けて進めてはというような意見もありましたが、もう少し情報を共有するため、今日の意見では合併するのかどうかというより、先に進んだ議論をというような意見が多かったと思います。そこで、もし統合したらどういう問題があり、どういう解決策があるのか、それぞれ検討してきていただく、そういう形で進めていってはと思いますがどうでしょうか？（全員同意の意思表示）
- 皆さんには宿題として、仮に統廃合した場合不安に思っていることとか、問題になることを考えてきていただきながら、進めていきたいと思っています。次回は1月中下旬の午後2時頃から開催したいと思います。

午後5時30分閉会